

大学の世界展開力強化事業
(平成26年度採択)
平成30年度フォローアップ結果について

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会
平成31年1月29日(火)
独立行政法人日本学術振興会

■ フォローアップの目的

大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、各大学における円滑な事業実施の支援、事業成果の還元のため、毎年度各大学の取組の進捗状況を確認するフォローアップ活動を行う。

＜参考：大学の世界展開力強化事業公募要領＞（抜粋）

2. 事業の概要

（7）事業の評価等

毎年度ごとのフォローアップ活動（後述の「中間評価」実施年度は除く。）に加え、支援開始から3年目の平成28年度に中間評価、支援終了後（支援開始から6年目の平成31年度）に事後評価を実施する予定です。これらのフォローアップ活動及び中間評価の結果は、翌年度の補助金の配分に勘案されるとともに、事業目的、目標の達成が困難又は不可能と判断された場合は、事業の中止も含めた計画の見直しを行うことがあります。これらの評価等については、委員会で定める評価方法、基準等に基づいて行われます。

■ スケジュール

- ・ 平成30年4月9日
フォローアップ実施について文部科学省から大学に通知
- ・ 5月23日～25日
大学からフォローアップ調査票の提出
- ・ 平成31年1月29日
プログラム委員会にフォローアップ結果の報告
- ・ 1月
フォローアップ結果の公表

■ フォローアップの総括

平成26年度に採択された9件のプログラムについて、構想の進捗状況、特記すべき事項や構想時に設定した達成目標に対する実績（派遣・受入の学生数）等のフォローアップを行った。

各プログラムの取組、課題等や学生交流の進捗状況を見ると、新たな大学との交流、ダブル・ディグリーやジョイント・ディグリーの実施に向けた具体的な活動、補助期間終了後の資金支援など、大学の国際化に向けた活動に努めており、それぞれのプログラムの目的や特色等を反映した取組が行われている。また、SNSを活用した広報活動が、事業内容や成果の公開はもとより、プログラムに参加する学生の増加に重要な役割を果たしていることが分かった。

事業全体の交流学生数については、プログラムによって派遣・受入数に若干のばらつきが見られる。交流数が目標を下回っている場合の要因として、留学資金や留学後の修学の負担増、就職活動への影響などを学生が懸念している点等が挙げられている。

本事業は平成30年度が支援最終年度ではあるが、各プログラムが目的に沿ってさらに取組内容を充実させ、成果を挙げていくことが期待される。

1. 取組の進捗状況

「大学の世界展開力強化事業 平成29年度フォローアップ調査票」による各採択大学からの回答に基づき、以下①～④の観点における取組内容の進捗状況について、抽出・整理した。

- ① 交流プログラムの内容
- ② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
- ③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

① 交流プログラムの内容

（主たる交流先の相手国・ロシア：北海道大学）

学生は日露の一般的な知識を習得するとともに、実際にロシアにおいて学修することを通じて、基礎科目以降のロシア留学に対する興味関心を持つ機会を与えることができた。また、基礎科目に参加したロシア人学生23名のうち9名が本学における専門科目に参加し、学生の専門分野における研究を深めることができた。さらに、本学学生1名が発展科目に参加し、サハリン国立大学において研究に対する調査と論文指導を受け、修士の学位を授与された。

（主たる交流先の相手国・ロシア：東北大学）

セメスター単位の派遣学生数を増やすため、ロシア側連携校に英語で受講可能なプログラムの開発を一層促すこと、学外では英語が通じないため生活面での不安を訴える学生が多いことから、連携校における留学生支援体制に関する情報提供を徹底し、学生の不安払拭に努めることが課題である。一方、受入学生については奨学金給付の有無が大きく影響するため、外部資金奨学金の可能性を検討していく。

（主たる交流先の相手国・ロシア：筑波大学）

補助金終了後の自走化に向け、企業・財団に対して寄附金を呼びかけている。すでに企業1社より累計400万円の寄附金を得ている。今後はウェブサイトを活用した情報発信にも努め、より多くの企業等から寄附金を得られるよう、活動を継続していく。

（主たる交流先の相手国・インド：北陸先端科学技術大学院大学）

協働教育研究指導による日本人学生の派遣では、インド留学に関心があるものの、標準修業年限内での修了や就職活動との両立等の点で難しさを感じている学生が多いことから、留学支援センターにおいて適切な派遣時期のコーディネートを行い、5名の学生を派遣した。

（主たる交流先の相手国・インド：立命館大学）

短期研究派遣・受入プログラムでは、学生の研究分野に基づき事前にマッチング調整を行い派遣・受入先を決定したことで、スムーズに研究を進めることができた。また、その機会をきっかけに、研究室単位での交流に展開する事例が複数出てきている。今後は、事例を周知・広報するなどして定着を図り、教員・学生の研究交流の更なる発展に繋げていく。

② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

（主たる交流先の相手国・ロシア：北海道大学）

国際運営委員会を開催して本学・ロシア連携大学5校の代表14名が本学に集まり、プログラム運営方針について討議するとともに、日露の単位制度を踏まえて、今まで明確ではなかった「発展科目」の実施期間や単位付与の条件を整備した。

（主たる交流先の相手国・ロシア：東京大学）

STEPSオフィスでは、理学系研究科・理学部国際化推進室、研究支援総括室と連携し、本事業運営に関する業務を一元的に行っている。また、モスクワ大学及びサンクトペテルブルク大学双方にSTEPSプログラム担当者（コーディネーター）が配置されており、STEPSオフィスを中核とする日露間の連絡体制と学生交流の支援体制が整った。

（主たる交流先の相手国・インド：長岡技術科学大学）

本学と連携大学が目指すジョイント・ディグリー・プログラムの構築に向け検討を行ってきたが、本学と相手方2校の授与する学位名称が異なることから、ガイドライン上、ジョイント・ディグリー・プログラムとして構築できないことが判明したため、将来的に学位の問題に対する解決策が整ったところでジョイント・ディグリー・プログラムへすぐに移行できるよう、同等のダブルディグリープログラムの開設に向け、今後のスケジュール及び課題点を整理・検討した。

（主たる交流先の相手国・インド：北陸先端科学技術大学院大学）

インド工科大学ガンディナガール校（IITGN）との間で、博士前期課程における学生の相互交流を伴う双方向型ダブルディグリープログラムの実施に係る覚書を締結し、両校のプログラム担当教員を中心に単位互換科目の調整、共同実施科目の開設など、本プログラムの特色を活かした教育課程の構築について協議を行った。

③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

（主たる交流先の相手国・ロシア：筑波大学）

外国人学生に対する就職セミナーや、日本人学生に対するビジネス研修などを実施し、就職に向けたフォローアップを行った。今後も、外国人学生、日本人学生双方に対して就職支援を継続していくとともに、進路調査を行い、本プログラムの具体的な成果を明らかにすることを目指す。

（主たる交流先の相手国・ロシア：東京大学）

派遣学生には渡航前に集中的なロシア語講座を実施することにより、渡航後すぐに役立つ実践的なロシア語を身に付けさせることができた。

（主たる交流先の相手国・ロシア：新潟大学）

DDP（ダブルディグリープログラム）学生については、生活に必要な額が支給されるよう、奨学金を準備した。また、これまでの取組が産業界からも評価を得て、三井物産株式会社新潟支店と連携協定を締結し、ロシアをはじめとする国際交流に少なくとも今後3年間に渡る支援を受けることとなった。

（主たる交流先の相手国・インド：東京大学）

インドへ派遣した学生からは事後のヒアリングを行い、学習・生活面での細かい情報を収集して次に派遣される学生のための有効な情報として利用している。受入学生とは密にコンタクトをとり、学内で行われている学生交流の機会への参加を促している。また、学習面だけでなく日本の文化を体験できるような企画の実施も行った。

（主たる交流先の相手国・インド：長岡技術科学大学）

日本企業においてインターンシップを行うインド人学生に対して日本の企業風土や品質への意識の高さについてオリエンテーションを行い、企業派遣前の本学での事前研修の充実を図った。また、受入学生へのヒアリングを通して、本事業による学生交流における学生側のニーズ及び満足度を再確認した。

④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

（主たる交流先の相手国・ロシア：北海道大学）

ウェブサイトでは学生の実習内容や学修風景をセントラルオフィス及び学生本人から発信をするとともに、Facebook、TwitterなどのSNSではイベント等の風景をリアルタイムに配信した。また、準備科目の募集説明会では、Facebookの動画配信機能を利用し、遠隔キャンパスにいる学生や都合がつかなかった学生がいつでもその内容を確認できるようにしたことによって、参加学生の獲得ができた。

（主たる交流先の相手国・ロシア：東北大学）

留学を経験したロシアの学生には、帰国後に本学代表事務所現地スタッフがインタビューを行っており、収集した体験談は本学ウェブサイトに掲載するなど、ロシア人留学生の獲得及びフィードバックとして活用している。また、日露の学生によるSNS等を活用した広報活動は、日露交流や留学に対する興味、関心の喚起に貢献している。

（主たる交流先の相手国・インド：東京大学）

インターンシッププログラムについては、第3回の募集を平成29年度末に行ったが、前年度よりさらに応募数が増加して募集定員の20倍を越え、情報が広く伝播していることを実感した。

（主たる交流先の相手国・インド：長岡科学技術大学）

在日インド大使館においてIITM（インド工科大学マドラス校）と本学で日印共同セミナーを開催し、日印の関係教員、日本留学中のインド人学生及びインドに留学した日本人学生が本事業で得た成果について発表し、インドに関係する大学・企業・団体からの参加者を得て、本事業の成果を広く共有・還元することができた。

2. 特記すべき成果

（主たる交流先の相手国・ロシア：東北大学）

日露学生フォーラムに異文化体験型交流プログラムに参加した学部学生とジョイントラボラトリー（エネルギー工学）所属の博士課程学生の2名が参加し、日本人学生の代表として専攻分野の観点から日露協力のポテンシャルを提言するなど、日露の新価値創造人材に相応しい役割を果たした。

（主たる交流先の相手国・ロシア：筑波大学）

「日露学生フォーラム2017」に本プログラムから日本人学生2名が参加し、うち1名が日露両国の学生が議論し取りまとめた提言を日本側代表として安倍首相に手渡した。

（主たる交流先の相手国・ロシア：新潟大学）

日露医療シンポジウムの開催：東方経済フォーラムに合わせて、ウラジオストクで日露医療シンポジウムを開催した（両国大学に加え、ロシア保健省副大臣、日本の文部科学省、新潟県、民間企業が多数参加）。

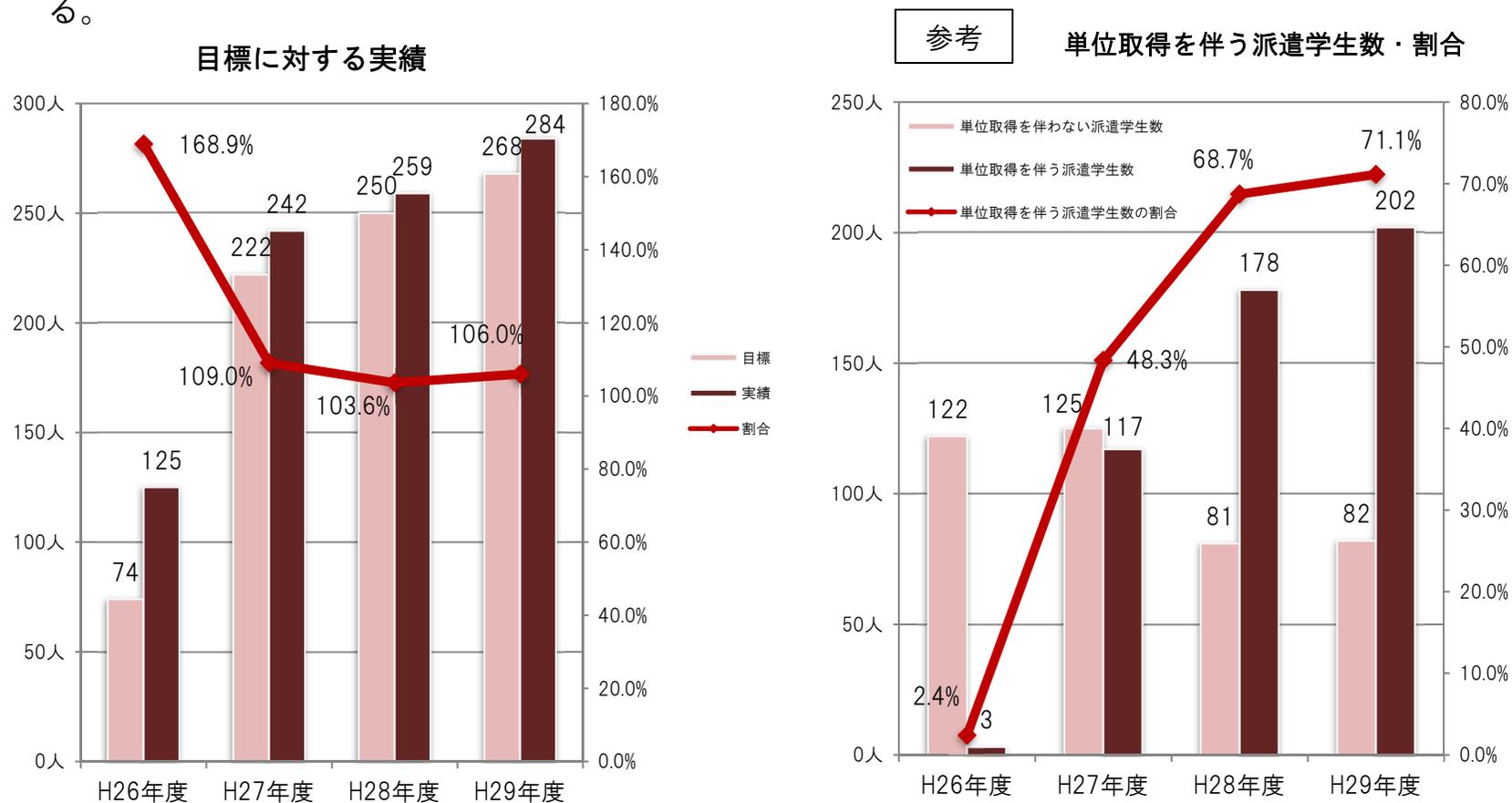
（主たる交流先の相手国・インド：長岡技術科学大学）

日本国内の民間企業との三者間協定に基づき受け入れたインド人学生4名が、本学での事前研修を経て3企業でのインターンシップを行った。うち2社は新規の実習先である。当該インターンシップは民間企業の経済支援を受けるスキームによる受入であることから、事業の継続性の観点から非常に有意義である。

3. 交流学生数の実績（1）

（1-1）交流プログラムで留学した日本人学生数（派遣学生数） について〈全体の状況〉

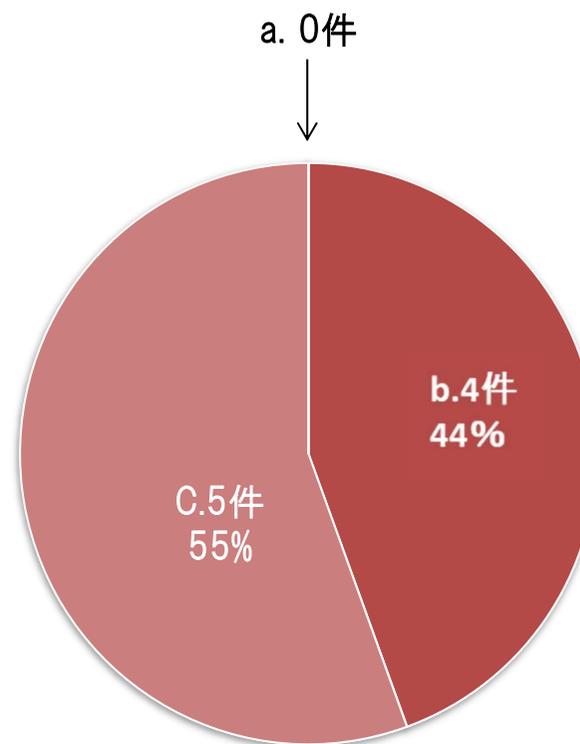
派遣実績は毎年度目標を上回っており、直近の2年間は単位取得を伴う派遣学生が多数を占めている。



(1-2) 交流プログラムで留学した日本人学生数（派遣学生数）
について〈各プログラムの状況（平成29年度）〉

目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上
- b. 100%以上～200%未満
- c. 100%未満



※個別の派遣学生数の詳細は別表1参照

(1-3) 交流プログラム(派遣)の進捗状況について (主な取組を抜粋)

【平成29年度の目標に対し実績が上回っているプログラム】

(主たる交流先の相手国・ロシア：筑波大学)

経済フォーラムの企画・組織・運営にも取り組み、現地の機関や学生との協働により、日本とロシア語圏の経済交流の発展に寄与するイベントを実施した。これらの活動を通じて、英語やロシア語を用いて仕事を進めることができるマルチリンガル人材としての基礎力が身に付いた。

(主たる交流先の相手国・ロシア：新潟大学)

交流数増加の最大の理由は、留学成果報告会の開催や、事業内容・実績をまとめた冊子の作成・配布により、これらの実績を学生に充分周知できたことにある。医学生交流のうち医学研究実習においては、平成28年度以降は多くの学生が参加を希望し、予定を上回る学生を派遣している。

(主たる交流先の相手国・インド：立命館大学)

各プログラムの募集説明会では、プログラム内容の説明とともに、過年度の参加学生の体験談発表を行っている。また、過年度の参加者が研究室の後輩にプログラムを勧めたことが翌年の参加に繋がっているケースが多くなっており、プログラムが定着してきていると言える。

【平成29年度の目標に対し実績が下回っているプログラム】

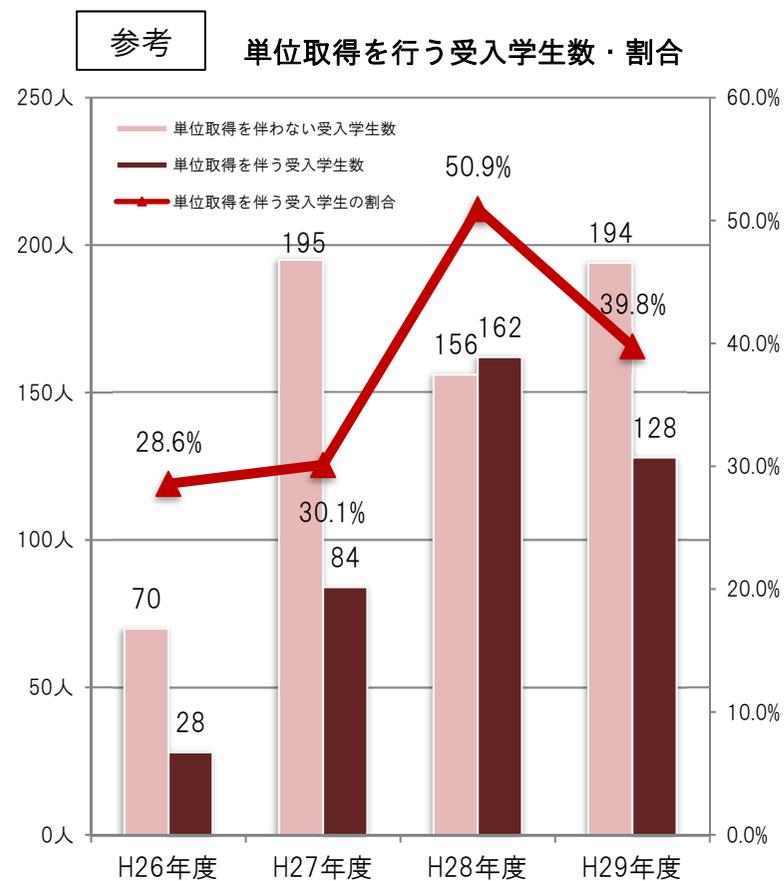
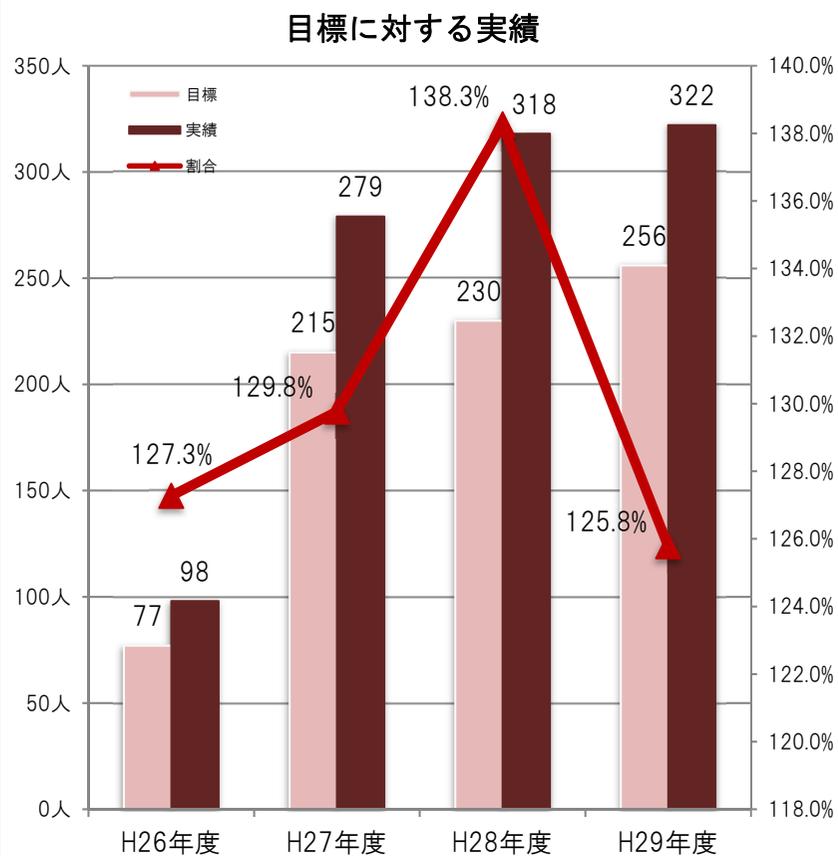
(主たる交流先の相手国・インド：長岡技術科学大学)

冬期に実施した短期派遣プログラムは、在籍大学で履修する授業への影響が少ない一方で、学会発表や論文執筆のための実験・実習を中断せざるを得ないこと、就職を控えた学生にとっては就職活動に影響することなどから平成29年度は留学希望者が少なく、派遣人数は当初目標の数値に届かなかった。派遣学生数は減少したが、単位互換を伴う学生を派遣するなど、学生1人あたりの滞在期間を長くすることに重点を置き、これにより質を伴う学生の派遣が実施できた。

3. 交流学生数の実績（2）

（2-1）交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数） について〈全体の状況〉

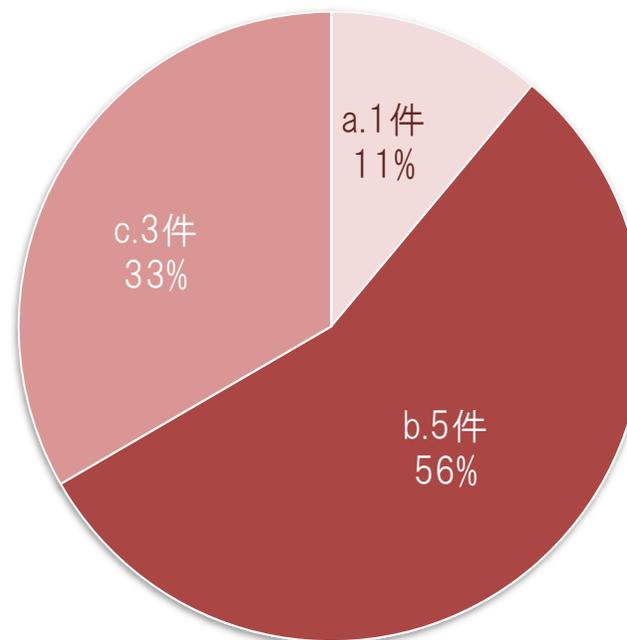
単位取得を伴う受入学生は4年間の平均で37.4%にとどまるが、受入実績は毎年度目標を上回っている。



(2-2) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数）
について〈各プログラムの状況（平成29年度）〉

目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上
- b. 100%以上～200%未満
- c. 100%未満



※個別の受入学生数の詳細は別表2 参照

(2-3) 交流プログラム(受入)の進捗状況について (主な取組を抜粋)

【平成29年度の目標に対し実績が上回っているプログラム】

(主たる交流先の相手国・ロシア：新潟大学)

平成29年度からは本事業へのロシア側参加校を拡大した。平成28年度に大学間協定を締結したサンクトペテルブルク大学とも交流を開始し、また、新たに北東連邦大学(ヤクーツク)、カザン連邦大学、カザン医科大学とも協定書を締結し、学生の受入を開始した。

(主たる交流先の相手国・ロシア：東京大学)

医療実務研修において、ロシアの医学生10名を本学附属病院(腎泌尿器外科、循環器外科、循環器内科、放射線治療科、神経内科、産婦人科)で受け入れた。日本の先進的な医療を学ぶことで、ロシアの医療現場を改善し発展させることのできる人材の育成に寄与できた。

(主たる交流先の相手国・インド：立命館大学)

受入学生からの本学大学院入試に関する問合せが増え、正規学生として大学院に毎年1名が入学している。また、過年度に受け入れた学生の声を聞き、本プログラムに申請する学生も出てきており、相手大学において波及効果が高まっていると考えている。

【平成29年度の目標に対し実績が下回っているプログラム】

(主たる交流先の相手国・ロシア：東北大学)

ロシアの独特な教育制度も、近年では徐々に欧米風にシフトしてきているが、学部生は履修科目が多く帰国後の負担も大きくなるため、中・長期留学を敬遠する傾向が根強い。また、留学申請をしながらも、種々の理由により留学をキャンセルする事例もみられる。経済的な問題も1つの要因と言える。

別表1:プログラムごとの派遣学生数(平成26年度選定)

(単位:名)

		取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)													
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数					左記以外の派遣学生数								
						(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上	(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上				
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績				
主たる交流先の相手国・ロシア	北海道大学	極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム	H26	10	5	50.0	0	0	0	0	0	0	10	5	10	5	0	0	
			H27	25	27	108.0	25	27	15	26	10	1	0	0	0	0	0	0	0
			H28	25	35	140.0	25	35	15	32	10	3	0	0	0	0	0	0	0
			H29	25	34	136.0	25	34	15	34	10	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	85	101	118.8	75	96	45	92	30	4	10	5	10	5	0	0	0
	東北大学	日露間における新価値創造人材の育成	H26	10	10	100.0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	0	0	0
			H27	23	14	60.9	8	0	6	0	2	0	15	14	15	14	0	0	0
			H28	23	17	73.9	8	17	6	15	2	2	15	0	15	0	0	0	0
			H29	23	20	87.0	8	16	6	15	2	1	15	4	15	4	0	0	0
			計	79	61	77.2	24	33	18	30	6	3	55	28	55	28	0	0	0
	筑波大学	ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム	H26	8	52	650.0	0	0	0	0	0	0	8	52	8	52	0	0	0
			H27	38	76	200.0	13	35	5	26	8	9	25	41	25	41	0	0	0
			H28	45	54	120.0	20	43	5	32	15	11	25	11	25	11	0	0	0
			H29	45	64	142.2	20	57	5	49	15	8	25	7	25	7	0	0	0
			計	136	246	180.9	53	135	15	107	38	28	83	111	83	111	0	0	0
	東京大学	自然科学と社会基盤学の連携による日露学生交流プログラム	H26	25	27	108.0	0	0	0	0	0	0	25	27	25	27	0	0	0
			H27	25	14	56.0	5	0	0	0	5	0	20	14	20	14	0	0	0
			H28	25	13	52.0	5	1	0	0	5	1	20	12	20	12	0	0	0
			H29	25	19	76.0	5	2	0	0	5	2	20	17	20	17	0	0	0
			計	100	73	73.0	15	3	0	0	15	3	85	70	85	70	0	0	0
新潟大学	日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成フレームワークの構築	H26	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		H27	11	13	118.2	4	1	2	1	2	0	7	12	7	12	0	0	0	
		H28	11	16	145.5	4	16	2	16	2	0	7	0	7	0	0	0	0	
		H29	13	20	153.8	5	20	2	20	3	0	8	0	8	0	0	0	0	
		計	35	49	140.0	13	37	6	37	7	0	22	12	22	12	0	0	0	
合計			435	530	121.8	180	304	84	266	96	38	255	226	255	226	0	0	0	
主たる交流先の相手国・インド	東京大学	日印産官学連携による技術開発と社会実装を担う人材育成プログラム	H26	6	11	183.3	0	0	0	0	0	0	6	11	6	11	0	0	0
			H27	40	32	80.0	16	0	16	0	0	0	24	32	20	32	4	0	0
			H28	42	43	102.4	24	0	24	0	0	0	18	43	13	43	5	0	0
			H29	43	41	95.3	31	0	31	0	0	0	12	41	7	41	5	0	0
			計	131	127	96.9	71	0	71	0	0	0	60	127	46	127	14	0	0
	長岡技術科学大学	長期インターンシップ実績を活用した南インドとの共同実践的技術者教育プログラム	H26	2	6	300.0	2	2	0	0	2	2	0	4	0	4	0	0	0
			H27	12	12	100.0	7	7	0	0	7	7	5	5	0	5	5	0	0
			H28	12	12	100.0	12	10	0	0	12	10	0	2	0	2	0	0	0
			H29	17	11	64.7	17	9	0	0	17	9	0	2	0	2	0	0	0
			計	43	41	95.3	38	28	0	0	38	28	5	13	0	13	5	0	0
	北陸先端科学技術大学院大学	インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学者・技術者の育成	H26	8	11	137.5	8	0	8	0	0	0	11	0	11	0	0	0	0
			H27	18	18	100.0	18	11	16	9	2	2	0	7	0	7	0	0	0
			H28	22	22	100.0	22	9	16	8	6	1	0	13	0	13	0	0	0
			H29	22	20	90.9	22	9	16	5	6	4	0	11	0	11	0	0	0
			計	70	71	101.4	70	29	56	22	14	7	0	42	0	42	0	0	0
	立命館大学	産学国際協働PBLによる南アジアの異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成	H26	5	3	60.0	0	1	0	1	0	0	5	2	5	2	0	0	0
			H27	30	36	120.0	30	36	30	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			H28	45	47	104.4	45	47	45	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			H29	55	55	100.0	55	55	55	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	135	141	104.4	130	139	130	139	0	0	5	2	5	2	0	0	0
合計			379	380	100.3	309	196	257	161	52	35	70	184	51	184	19	0	0	
総計			814	910	111.8	489	500	341	427	148	73	325	410	306	410	19	0	0	

別表2:プログラムごとの受入学生数(平成26年度選定)

(単位:名)

	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)													
		目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数							
					(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上			
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績			
主たる交流先の相手国・ロシア	北海道大学	極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム	H26	25	35	140.0	0	0	0	0	0	0	25	35	25	35	0	0
			H27	25	25	100.0	25	25	15	16	10	9	0	0	0	0	0	0
			H28	25	24	96.0	25	24	15	18	10	6	0	0	0	0	0	0
			H29	25	23	92.0	25	23	15	14	10	9	0	0	0	0	0	0
			計	100	107	107.0	75	72	45	48	30	24	25	35	25	35	0	0
	東北大学	日露間における新価値創造人材の育成	H26	10	12	120.0	0	2	0	0	0	2	10	10	10	10	0	0
			H27	27	26	96.3	12	5	8	0	4	5	15	21	15	21	0	0
			H28	27	26	96.3	12	7	8	0	4	7	15	19	15	19	0	0
			H29	27	15	55.6	12	1	8	0	4	1	15	14	15	13	0	1
			計	91	79	86.8	36	15	24	0	12	15	55	64	55	63	0	1
	筑波大学	ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム	H26	8	14	175.0	0	14	0	0	0	14	8	0	8	0	0	
			H27	40	98	245.0	18	28	0	0	18	28	22	70	22	49	0	21
			H28	40	106	265.0	18	74	0	22	18	52	22	32	22	10	0	22
			H29	40	44	110.0	18	26	0	18	18	8	22	18	22	0	0	18
			計	128	262	204.7	54	142	0	40	54	102	74	120	74	59	0	61
	東京大学	自然科学と社会基盤学の連携による日露学生交流プログラム	H26	0	8	-	0	0	0	0	0	0	8	0	8	0	0	
			H27	25	1	4.0	5	0	4	0	1	0	20	1	20	1	0	0
			H28	25	31	124.0	5	2	4	0	1	2	20	29	20	29	0	0
			H29	25	23	92.0	5	2	4	0	1	2	20	21	20	21	0	0
			計	75	63	84.0	15	4	12	0	3	4	60	59	60	59	0	0
新潟大学	日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成フレームワークの構築	H26	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		H27	11	15	136.4	4	0	0	0	4	0	7	15	7	15	0	0	
		H28	11	17	154.5	4	16	0	16	4	0	7	1	7	1	0	0	
		H29	22	28	127.3	13	28	4	27	9	1	9	0	9	0	0	0	
		計	44	60	136.4	21	44	4	43	17	1	23	16	23	16	0	0	
合計			438	571	130.4	201	277	85	131	116	146	237	294	237	232	0	62	
主たる交流先の相手国・インド	東京大学	日印産官学連携による技術開発と社会実装を担う人材育成プログラム	H26	2	4	200.0	2	4	0	0	2	4	0	0	0	0	0	
			H27	42	58	138.1	21	11	19	3	2	8	21	47	20	46	1	1
			H28	43	49	114.0	29	15	27	3	2	12	14	34	12	34	2	0
			H29	45	111	246.7	35	14	32	0	3	14	10	97	8	97	2	0
			計	132	222	168.2	87	44	78	6	9	38	45	178	40	177	5	1
	長岡技術科学大学	長期インターンシップ実績を活用した南インドとの共同実践的技術者教育プログラム	H26	4	3	75.0	0	0	0	0	0	4	3	0	3	4	0	
			H27	10	11	110.0	0	2	0	2	0	0	10	9	0	9	10	0
			H28	10	12	120.0	10	3	0	3	10	0	0	9	0	9	0	0
			H29	23	16	69.6	23	9	0	8	23	1	0	7	0	7	0	0
	計	47	42	89.4	33	14	0	13	33	1	14	28	0	28	14	0		
	北陸先端科学技術大学院大学	インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学者・技術者の育成	H26	18	20	111.1	6	6	0	0	6	6	12	14	12	14	0	0
			H27	20	22	110.0	8	0	0	0	8	0	12	22	12	20	0	2
			H28	24	27	112.5	12	10	0	4	12	6	12	17	12	17	0	0
			H29	24	24	100.0	12	12	0	3	12	9	12	12	12	12	0	0
	計	86	93	108.1	38	28	0	7	38	21	48	65	48	63	0	2		
	立命館大学	産学国際協働PBLによる南アジアの異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成	H26	10	2	20.0	7	2	0	0	7	2	3	0	3	0	0	
			H27	15	23	153.3	15	13	5	4	10	9	0	10	0	10	0	0
			H28	25	26	104.0	25	11	10	9	15	2	0	15	0	15	0	0
			H29	25	38	152.0	25	13	10	11	15	2	0	25	0	19	0	6
			計	75	89	118.7	72	39	25	24	47	15	3	50	3	44	0	6
合計			340	446	131.2	230	125	103	50	127	75	110	321	91	312	19	9	
総計			778	1,017	130.7	431	402	188	181	243	221	347	615	328	544	19	71	